cafe talk_12

12号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
新たな挑戦をつづけるおふたりのお話に、夢が広がります。

池田 敦さん（左）クリエイティブディレクター
1978年滋賀県生まれ。デザイン専門学校卒業後、印刷会社、デザイン会社、広告代理店を経て、2009年7月、デザイン事務所G_graphics設立。様々な案件のクリエイティブディレクションを手掛ける。同時に、東京・大阪の2拠点にて展開するギャラリー&プロダクトレーベル ondoの企画。各種イベントプロデュースも手掛ける。

阪口 玄信さん（右）グラフィックデザイナー
1979年大阪府生まれ。大阪総合デザイン専門学校を卒業後、デザイン会社を経て、2009年7月に池田敦とともにG_graphics設立。様々な案件のアートディレクションと共に書籍やエディトリアルデザインを手掛ける。

―― 「G_GRAPHICS」でのおふたりの役割の違いって、どんなところにあるんですか？

池田 チームや、時にデザイン案件のブランディングやコンセプトを考えたり、ギャラリーやプロダクトの企画を立てたりするのが僕で、デザイン全体を見ているのが、基本的に阪口なんです。根底の価値観は一緒なんだけど、それぞれのスペシャリストになろうってことで。

阪口 僕らの働き方は、ちょっと特殊かもしれないですね。縦のラインでものごとが動くのではなく、みんなの得意なことが活きればと。その方が、いいものができると思っているんです。そういうやり方で認められたいですね。

―― ギャラリー&プロダクトレーベル「ondo」も運営されていますよね？

池田 デザイン事務所をやっていると、作家とかイラストレーターの知り合いが増えるんです。人と人がつながって、活動が広がっていく場を作り出せたらと思って4年前にはじめました。そういう人たちが活躍する場をつくりたいし、自分たちも一緒に成長したいんです。

―― 東京でも「G_GRAPHICS」と「ondo」の活動をさらに展開していくとお話を伺ったのですが？

池田 今年の春か夏頃に、清澄白河でオープンする予定です。ここでは「Stay&Exhibition」をコンセプトに掲げようと考えています。東京の人はもちろん、関西や海外などから作家が訪れて、宿泊して暮らしながら展示ができたらと考えています。ベースキャンプのような場所ですね。

―― 聞いているだけで、ワクワクしてきます！

ninOval cafe　enoco地下1階　営業時間：11:00―18:30（月曜日定休）
人気のダッチベイビーパンケーキにお食事系メニューが新登場！
「冬のあつあつチーズクリーム ダッチベイビーパンケーキ」。スキレットで一気に焼き上げたダッチベイビーは、中はもっちり縁はシュー生地のように膨らんでカリッとしています。熱々の生地の上には、かぼちゃ・プチトマト・自家製ベーコンがのって、仕上げにたっぷりのチーズソースがかかっています。ブランチやランチにぴったり！ぜひお試しください。

enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006　大阪市西区江之子島2丁目1番34号
開館時間：10:00〜21:00（ただし展示室は11:00〜19:00・日曜日は11:00〜16:00）
月曜・年末年始休館
電　話　06-6441-8050｜FAX：06-6441-8151
メール　art@enokojima-art.jp
www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 12　2017年1月発行
｜発行｜大阪府立江之子島文化芸術創造センター
｜編集｜高坂玲子・近藤美智子（enoco 企画部門）
｜表紙・特集ページデザイン｜池田敦・阪口玄信（G_GRAPHICS INC.）
｜イラスト（エノケン、似顔絵）｜タダユキヒロ
｜アートディレクション｜後藤哲也（OOO Projects）
｜デザイン｜小池一馬（OOO Projects）
「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。
enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

[アクセス]
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

enoco 12

特集 大阪のまちとアートの12年 ―大阪府が手がける文化事業

江之子島文化芸術創造センター｜enocoニュースレター｜2017｜1

enocoができるまで・できてから・これから…

enocoは2012年にオープンした大阪府立の文化施設です。
今年の4月で5周年を迎える、まだ新しい施設ですが、
それまでの大阪府の文化行政の蓄積がここにはあります。
enocoができるまでとできてから［干支がひとまわりする12年］の
大阪府の文化を取り巻く動きを見ていきましょう。
それは都市におけるアートの実践の歩みでもあります。

12号の表紙　デザイン：池田敦（G_GRAPHICS INC.）
江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enocoニュースレター」。表紙と巻頭は、毎号異なる関西のクリエイターたちが担当します。12号では、enocoニュースレター初の90°回転レイアウトでお届け！ヒントクダムになったヒトの目線を追うと、大阪のまちとアートの歩みが見えてきます。1本の道が分岐し、また別の道とつながり、重なり合う…大阪の12年がギュッと詰まった年表&スゴロク仕立ての特集は必見です。

http://www.enokojima-art.jp/

大阪のまちとアートの12年 ―大阪府が手がける文化事業

2005年度

大阪・アート・カレイドスコープ『do art yourself～すべての人は表現者』開催

2005年11月25日～12月17日
大阪府立現代美術センター他で開催
主催：大阪府立現代美術センター
企画・運営：大阪アートNPOコンソーシアム

行政とNPOによる協働

それまでプロデューサー制度をとっていた事業における新たな試みとして、大阪の8つのアート系NPOによる協働事業体が企画運営するという形態で開催されました。以降の大阪の芸術環境を整えていくことが大きな目的でもあったため、様々な専門性や活動領域をもつ人々とのネットワークが形成される契機となりました。

COMMENT 01

寺浦薫

大阪府府民文化部都市魅了創造局文化・スポーツ課主任研究員

enocoの前身施設である現代美術センター時代の2005年頃から、大阪という都市の中でのアートの実践を試みるにあたって、様々なステークホルダーと繋がることを意識してきました。アートやデザインを軸とした活動を行うNPOやアーティストと、まちづくりや都市整備を担う専門家や行政部局の双方が連携を取りながら、ハードとソフトが一体的に都市再生に取り組む、そういった協働が可能となるプラットフォームや仕組みづくりを進めることこそが行政の役割だと考えています。社会の中で文化がどう展開していくのか、そして文化がどう社会を支えるのかといったことを常に考え、見直しながら、都市に関わる様々な人たちを巻き込んでいきました。

2006年度

大阪・アート・カレイドスコープ『大大阪に会いたい』開催

2007年3月1日～21日
大阪市内の近代建築など全16ヶ所で開催
主催：大阪府立現代美術センター

都市の中でのアートの展開

北川フラム氏をプロデューサーに迎え、大阪市内の船場エリア等に残る現役の近代建築等で仮設の作品展示を行いました。歴史的建築物や場所を活用した展覧会は今でこそ一般的になりましたが、当時はまだ新しい試みだったため、使用交渉などに建築家やまちづくり関係者の協力を得ながら進めました。

COMMENT 02

大谷燠

NPO法人DANCEBOX代表

「カレイドスコープ」の時に、現代美術センターと私たちNPOとの協働で、船場の近代建築をまわるダンスツアーを開催しました。その時、アーティストにはこの場所だからできるサイトスペシフィックな作品をつくってくださいと伝えました。大阪という都市が持つ記憶とコンテンポラリーダンスがどう相交わることができるのかを試みる良い機会だったと思います。そのような大阪の歴史を表す場所や建築をよく使えるようにしてくださったと思いますね。「水都大阪2009」の時にも、中之島公園を舞台にワークショップやダンスツアーを企画し、開かれた場所でダンスをする新たな挑戦をしました。それらは多様な価値観に出会うことのできるまちをつくっていく試みだったようにも思います。

2007年度

大阪・アート・カレイドスコープ『大阪時間』開催

2008年3月1日～20日
大阪市内の近代建築や史跡など全10カ所で開催
主催：大阪府立現代美術センター

江之子島地区 まちづくり事業コンペ実施

明治時代に旧大阪府庁が建てられた江之子島地区一帯を文化を軸にした新しい都市空間として開発する事業。現在のenocoの建物（旧産業技術総合研究所）をアートセンター（仮称）として改修する計画も含まれる。

水都大阪2009実行委員会発足

「水の都」として都市再生を狙う大阪府・市・経済界等による取組みの中で、2009年をシンボルイヤーとして「水都大阪2009」が開催されることが決まり、その運営組織として実行委員会が発足

2008年度

2009年度

photo: Junya Ikeda

COMMENT 03

北川フラム

アートディレクター／水都大阪2009プロデューサー

「大阪・アート・カレイドスコープ」の時に大阪のまちに入っていくと、元気のいいNPOなどの人々に多数出会いました。アート、建築、まちあるき、水辺での活動…別々に動いているけれど、ひとつひとつは質が高く活発で、東京よりも数が多い。そういった人々の動きとともに、大阪が東洋のマンチェスターと呼ばれた大大阪時代の近代建築、そして川・水辺といった資源を活用しない手はないと思いました。「水都大阪2009」では更に多くの人々に協力を呼びかけ、様々なアーティストや団体による五感を使って水辺を楽しむプログラムを展開しました。あの時の密度や濃度が、その後の大阪の動きに繋がっているのではないでしょうか。水辺に目を向け、まだら模様のように存在する多様な都市の様相をアートの実践の場としていくことで、都市の未来が拓かれる可能性がまだまだ大阪にはあると思います。

水都大阪2009

2009年8月22日～10月12日
中之島公園、水の回廊ほか大阪市内各所
主催：水都大阪2009実行委員会

ハード・ソフトが一体となった都市再生

「川と生きる都市・大阪」をコンセプトとし、アートと市民参加を軸に『水都大阪2009』が開催されました。当時の府知事によって前年に計画修正が提案されたことにより、水辺を中心とした都市の景観整備というハード面と、アートを活用した都市の魅力発信というソフト面の協働が強化されました。メイン会場となる中之島公園では150組以上のアーティスト・団体による参加型プログラムが多数展開され、アートによる多様な場の使いこなしが行われました。

COMMENT 05

ヤノベケンジ

美術作家／おおさかカンヴァス審査員

「水都大阪2009」は当時の府知事によって計画の再考を求められたのですが、その時に船を改造し、実際に乗って大阪の川を巡ることの出来る作品《ラッキードラゴン》をつくりました。これが人々のイマジネーションをかきたて、大阪のまちを新たな視点で見る起爆剤となったのではないでしょうか。それが契機となり、その後の「おおさかカンヴァス」では、アーティストのアイデアを都市の中で具体化できる仕組みが作られました。カンヴァスは他の芸術祭とは違い「都市の可能性を拓く役割をアートがいかに担うのか」ということを問われます。またアートの専門家でない人でも行政のサポートを受けて発表をすることができます。それにより今までにないアートの価値観や概念を発明したプロジェクトと言えると思います。

COMMENT 04

忽那裕樹

水都大阪パートナーズプロデューサー／enocoPF部門ディレクター

「水都大阪2009」では中之島公園での会場構成等、アートによる公共空間の使いこなしの仕組みづくりに関わりました。それを受けて、その後都市の魅力を創造するために、市民府民の場所の使いこなしを推進し愛着と誇りのプロセスをつくっていこうという戦略を立て、2011年から水都大阪フェスというお祭り、そしてそれを制度として継承していく「水都大阪パートナーズ」という組織を2013年に立ち上げました。大きな都市計画と“行動を起こす”という小さなまちづくりの動きを同時に進めていくとともに、「あんな使い方ができるのか」と場所のインビジブルな可能性を引き出し、土地の価値の変化を起こすアートとの関係性を密に取りながら都市づくりを展開しています。

まちづくり、建築、都市デザイン等との協働

「水都大阪2009」が大きな契機となり、まちづくりや都市計画、建築といったジャンルで活動する人々とアートの実践者などが協働する仕組みやネットワークが形成されました。大阪府の文化事業はここから、アート・デザインを活用し都市の課題をクリエイティブに解決していく仕組みと拠点づくりを目指して新たな局面を拓いていきます。

第2次大阪府文化振興計画策定

木津川ウォールペインティング

2009～2011年
木津川護岸をアーティストの発表の場として活用し、アートの力で新しい水辺の風景をつくりだす事業
主催：大阪府

2010年度

アートセンター
構想検討会設置

おおさかカンヴァス推進事業スタート

2010年〜2016年
大阪府内各所で開催
主催：大阪府

公共空間を使いこなし、アートで都市の可能性を拓く

大阪のまちをアーティストのアイデアや想いを実現できる場として活用することで、大阪の新たな都市魅力を創造・発信していく「おおさかカンヴァス」。まちなかの公共空間にかかる様々な規制やルールに挑戦しながら、アートが多様な場の使いこなし方、魅力の発掘を先導して提示していくことで、都市の新たな可能性が次第に拓かれていきます。

COMMENT 06

渡部秀樹

大阪府府民文化部都市魅力創造局文化・スポーツ課総括補佐

「おおさかカンヴァス」は都市を舞台としたアーティストの表現をサポートするために、行政が仕組みづくりと環境整備を担うというシンプルな考えから生まれています。この事業はアートイベント、賑わいづくりのイベントというより、公共空間の可能性・アーティストの表現の場を拓き次につなげていくことを強く意識してスタートしました。ただ当初は庁内での理解を得るのが難しく、財政部局や展示場所の管理部局等を駆けずり回り説明をし続けました。事業のねらいを明確にするため課内で議論を重ね、3年目あたりで一つの形が実現し、4年目で当時はまだ何もない中之島GATEに挑戦するという動きに繋がりました。毎年場所は変わりますが、事業の軸はブレずに進めることを徹底しています。

2011年度

水都大阪フェス
2011

撮影：大阪市

江之子島アートセンター（仮称）
検討会の設置／指定管理者候補選定

2012年度

大阪府立江之子島文化芸術創造センター［ enoco ］開館

2012年4月1日開館
指定管理者：長谷工コミュニティ・E-DESIGNプラットフォームグループ

アートやデザインを活用した社会課題解決

enocoはこれまでの大阪府の文化事業の中で培ってきたネットワークを活かし、アートやデザインの持つ力で社会課題や行政課題などの解決を試みる拠点としてオープンしました。多様なステークホルダーとともにクリエイティブな発想で、都市・地域の課題解決や枠組みづくりに取り組むべく、「プラットフォーム形成支援事業」をはじめ様々な事業を展開していきます。

水都大阪フェススタート

中之島公園、中之島GATE、道頓堀・とんぼりリバーテラスなど大阪市内各所で開催
主催：水都賑わい創出実行委員会（2011,2012）、一般社団法人水都大阪パートナーズ（2013〜）

おおさかカンヴァス
2012
×
水都大阪フェス
2012

水都大阪フェスと協働し、中之島公園を舞台に展開

第3次大阪府文化
振興計画策定

2013年度

府内の市町村等の課題解決をサポートする事業を開始（交野市、泉南市等にて）

大阪アーツカウンシル
始動

おおさかカンヴァス2013×
水都大阪フェス2013

水都大阪フェスと協働し、中之島西端の「中之島GATE」を舞台に展開。

一般社団法人
水都大阪
パートナーズ設立

2014年度

自治体等対象の相談事業「eno so done!」開始

ネットワークとノウハウの拡がり

enocoやおおさかカンヴァスに蓄積されてきたノウハウやネットワークを活かし府内の自治体などが抱える課題の解決のお手伝いをする中で、大阪府内の様々な地域との関わりが増えてきています。アートやデザインの力が活かされる機会や場を増やしていくことも、広域行政である「府」の施設であるenocoの重要な役割です。

おおさかカンヴァス
2014

大阪のメインストリートである御堂筋を舞台に展開

水都大阪フェス
2014

撮影：（一社）水都大阪／ヨーイドン／株式会社ぴあ

2015年度

仕組みづくりに携わった「木津川遊歩空間」一部供用開始（2016年度全体供用）

おおさかカンヴァス
2015

道頓堀川など大阪市内の水辺を舞台に展開

撮影：Sogetsu Kon

水都大阪フェス
2015

撮影：（一社）水都大阪／ヨーイドン／株式会社ぴあ

2016年度

第1期指定管理者
最終年度

第4次大阪府文化
振興計画策定

おおさかカンヴァス
2016

「太陽の塔」がある万博記念公園を舞台に展開

撮影：Yuki Moriya

水都大阪フェス
2016

撮影：（一社）水都大阪／ヨーイドン／株式会社ぴあ

COMMENT 07

甲賀雅章 enoco館長

私の本拠地は静岡ですが、enocoの館長となり大阪に通うようになりました。静岡でデザイン事務所を経営していますが、大道芸ワールドカップというフェスティバルのプロデューサーを創生期から25年続けています。この経験から、社会や地域の課題解決にアートやデザインなどのクリエイティブ思考が実に有効的であることを実感しました。enocoの活動を通して、より多くの人々がクリエイティブに物事を考えられるようになり、大阪に新しい価値観を創造していけたらいいなと思っています。個のポテンシャルは高いのに統合パワーが生まれにくい大阪。外の人間でしがらみのない私が今までにないネットワークを紡いでいきながら、府が推進してきた文化事業を担う拠点として、今後はさらに行政の仕組みにまで働きかけるような運動体になっていきたいと思っています。

enocoドキュメント制作進行中！

enocoの5周年に向けて、5年間を振り返るドキュメントブックを3月下旬に発行する予定です。ここでは紹介できなかった、enocoが取り組んできた様々な課題へのアプローチ、関係者インタビューなどを掲載します。

COMMENT 08

古谷晃一郎 おおさかカンヴァスチーフディレクター

大阪府から委託を受けた事務局のチーフディレクターとしてアーティストのサポートを行ってきました。中之島公園という水辺の公園、中之島GATEという当時はまだ何もない埋立地、道路に面する空間、観光客が溢れる道頓堀、太陽の塔というラスボスがそびえる万博公園、毎回新たな場所で、都度違ったまちのルールに対峙するという大変さがありますが、そのたびにアーティストと協働でより良いゴールを目指してきました。毎回そうして様々なアイデアや規制の乗り越え方が蓄積され、次はまた別の道筋が見えてくるという面白さがある事業です。またアートとまちをつなぐマネージメント側の人材も育成されてきました。このノウハウと人材ネットワークをいかに継いでいくかが今感じている課題です。

これからのイベント情報

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。
www.enokojima-art.jp

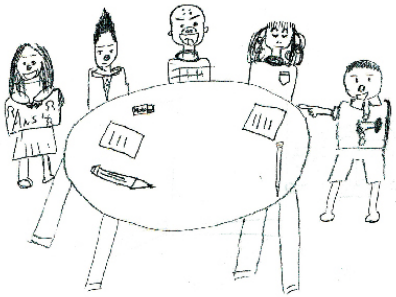
様々なクリエイティブ分野のキーパーソンが集結

創造のテーブル 2017

enocoがオープンして2017年3月で5周年を迎えます。この節目の機会にこの5年を振り返り、次の5年を展望する記念フォーラムを開催します。アート、デザイン、パフォーミングアート、そして都市（アーバンデザイン）と、これまでenocoが重点的に取り組んできたジャンルから、2名ずつキーパーソンを招き、関西の内側と外側の両面から、大阪の文化状況を問い直し、これからのenocoや大阪のクリエイターが目指すべき方向性を探ります。
プログラムは各ジャンル別に対談形式で進められ、最後に全員によるディスカッションを行います。参加者は全て通しで聞いて頂いても、関心のあるジャンルだけ選択してもOKです。フォーラム終了後は、多様なクリエイターが集まるパーティーも開催予定。
—
日時｜2017年3月25日（土）
　　13:00〜19:00終了予定（12:30受付開始）
会場｜enoco 4F ルーム1
入場無料／当日先着順受付（定員100名）
[出演者]
●ナビゲーター
　甲賀雅章（enoco館長・プロデューサー）
　忽那裕樹（enocoPF部門 チーフディレクター）
○デザイン
　西村佳哲（リビングワールド）×服部滋樹（graf）
○パフォーミングアート
　大澤苑美（八戸市）×大谷燠（DANCE BOX）
○都市（アーバンデザイン）
　岩瀬諒子（岩瀬諒子設計事務所）
　×泉英明（ハートビートプラン）
○アート（※出演者調整中）

enoco×タチョナ企画

ヒミツのこども企画会議



“ワークショップ”とはものを作ったり、参加することで、新しいことを学んだり、問題を解決できる教室のこと。そんなワークショップをこどもが大人のために企画します。みんなで“大人のためのアート・ワークショップ”をつくってみませんか？
子育て中のCMプランナー・小川百合さんを議長に全3回の「ヒミツのこども企画会議」を開催します。アートやデザインに興味のある人、ワークショップを考えたい人を募集します。
—
[実施概要]
①2017年2月4日（土）
企画の仕方、役割を考える「人に伝えるってどんなこと？」
②2017年2月18日（土）
ワークショップの企画を考える「してもらいたいこと、したいこと」
③2017年3月4日（土）
チラシづくり「参加してもらうために必要な○○○！！」

会場｜enoco 4F ライブラリー
対象｜小学4年生〜小学6年生
　　（定員10名／持ち物：筆記用具）
講師｜小川ゆり（CMプランナー）
主催｜enoco、一般社団法人タチョナ
参加無料／要事前申込
※お申込方法はenocoHPをご確認ください。

[関連イベント]
「大人のためのアート・ワークショップ」
日時｜2017年3月25日（土）10:00〜14:00
　　※昼食をはさみます
会場｜未定（enoco周辺）
対象｜大人（20歳以上）

enocoの学校 第4期ソーシャルデザイン入門コース

公開プレゼンテーション

クリエイティブな発想で社会の課題と向き合い、自ら行動することのできる人材を育てる「enocoの学校」。2016年度の受講生が約半年間にわたり取り組んできた企画提案のプレゼンテーションを公開形式で行います。
今期は受講生達が議論して考えた5つのテーマ（社会課題）“まちづくり” “アート” “はたらく” “子育て” “マナー”から、『新しい大阪の魅力（スタイル）を創造する』企画を発表します。受講生は5つのチームに分かれ、それぞれのテーマについて社会的成果や評価について考え、成果を達成するためのアクションプランとストーリーのデザインを試みます。
今期、受講生はソーシャルデザインを実践する人たちの考え方や実践の事例を学んできました。そんな受講生達が注目した社会課題に対して、どんな創造的な解決（提案）が示されるか、期待が高まります。
プレゼンテーション当日はゲスト講評者による講評をもらいながら、一般に公開し、積極的に意見交換していただきたいと思います。
“まちづくり” “アート” “はたらく” “子育て” “マナー”に関わる課題に取り組むみなさん、5つのテーマに関心をお持ちのみなさんのご参加をお待ちしています。
—
日時｜2017年3月4日（土）15:00〜（予定）
会場｜enoco 1F ルーム4
観覧無料

リサーチ＆制作スタート！

enoco[study?]#4入選アーティスト決定

2016年10月に第4回アーティスト・サポート・プログラムenoco[study?]の審査会が行われました。
絵画、インスタレーション、映像など、幅広い分野のアーティストからご応募を頂いた今回でしたが、「美術作品・プロジェクトとしてのオリジナリティがあるか」「社会や他者と関わることへの積極的な姿勢があるか」など5つの選考基準のもと、2名の外部審査員とenocoスタッフによる厳正なる審査の結果、冬木遼太郎さんが入選アーティストとして決定しました。
これまで、関西を中心に活動をつづけられてきた冬木さんですが、今回は、自身と他者、制作と労働など様々な関係性の“あいだ”に目を向け、2016年11月よりヨーロッパにてリサーチを開始。12月に大阪に戻られてからは引き続きリサーチと対話をつづけています。enocoでの活動については、ウェブサイトやSNSなどで随時お知らせしていきます。今後の展開にどうぞご注目ください。
—
[中間レビュー]
日時｜2017年1月27日（金）19:00〜20:30
会場｜enoco 2F ルーム11
リサーチの成果や制作の進捗、展覧会の構想について、アーティストが発表します。

[展覧会]
日時｜2017年3月11日（土）〜3月26日（日）（予定）
　　※月曜休館
会場｜enoco 4F ルーム2
3ヶ月間にわたる活動を経ての展覧会を開催します。

エキシビションカレンダー　2017年1月-3月

月	会期	展覧会名	ルーム
1	10(火)-15(日)	大阪成蹊大学芸術学部美術学科 美術コース・表現教育コース 4年生展	[ルーム1]
	10(火)-15(日)	大阪成蹊大学×enoco連携アートプロジェクト ひょうきょうeno国	[ルーム2,3]
	10(火)-15(日)	第3回 松の木会 写真展	[ルーム4]
	18(水)-2/11(土)	大阪新美術館×大阪府20世紀美術コレクション 大阪版画百景	[ルーム1,2,3]
	31(火)-2/5(日)	第2回 種展	[ルーム4]
2	7(火)-12(日)	Portrait Session	[ルーム4]
	14(火)-19(日)	TRANS NATIONAL ART 2017	[ルーム1,2,3]
	14(火)-19(日)	サカナヘンノヒトタチ展	[ルーム4]
	21(火)-26(日)	第25回 近畿大学 文芸学部 芸術学科 造形芸術専攻 卒業制作展	[ルーム1,2,3]
	28(火)-3/5(日)	第62回 青桃会展	[ルーム1,2]
3	10(金)-19(日)	江之子島芸術の日々 2017	[ルーム4]
	11(土)-26(日)	enoco[study?]#4 ※スケジュールは変更となる場合がございます。詳細はenocoHPをご確認ください。	[ルーム2]
	28(火)-4/2(日)	第18回 写真集団FOTO展 12の視点	[ルーム1(B)]

くわしくはホームページをご覧ください　http://www.enokojima-art.jp/

PICK UP

大阪新美術館×大阪府20世紀美術コレクション
大阪版画百景　-大阪の版画の歴史をたどる-

20世紀の大阪では、前田藤四郎、泉茂、吉原英雄をはじめ多くの作家が優れた版画作品を生み出しました。1951年結成の前衛グループ「デモクラート美術家協会」は、大阪を拠点の一つとして版画にも力を入れ、その発展を主導しました。1973年から92年には、前田が版画に携わる作家たちを集めてグループ展「版画8」を開催し、版画に関する運動の舞台としても、大阪は重要な地でした。「大阪版画百景」展は江之子島文化芸術創造センターと大阪新美術館建設準備室の共同企画によるもので、大阪府と大阪市の所蔵品から、大阪を描いた風景や大阪出身の作家など大阪ゆかりのものを中心に、20世紀以降の版画作品約140点と関連資料を展示します。大阪というまちが育んできた版画作品を府・市のコレクションによってご鑑賞いただき、版画家たちの豊かな活動に触れていただく機会となれば幸いです。

会期｜2017年1月18日(水)〜2月11日(土・祝)
11:00-19:00　※月曜休館
会場｜enoco 4F ルーム1・2・3　**入場料**｜無料
主催｜大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)、大阪新美術館建設準備室

展覧会 & イベントレビュー

クリエイターが手がける行政デザイン
パブリック・リデザイン

(2016年12月13日〜25日)

日本のお役所とデザインは相性がわるい。お役所が作るもののデザインに首を傾げる方、いませんか?

行政機関の業務委託のしくみ、デザイン料金に対する無理解など、理由はいろいろある。しかし、それ以前にもっと大きな問題があるのではないか。「パブリック・リデザイン」は、この問題にあらためて正面から光をあてた。

プロジェクトはシンプルだ。enocoは5組のクリエイターに参加を依頼し、彼らにデザインを託したい自治体を募る。デザイン料はenocoが負担するため、役所内部の複雑なハードルはぐっと低くなるだろう。この機会にカッコいいものを求める担当者はいるだろうし、実際にたくさんの応募があった。そのなかから、それぞれのクリエイターが自ら手がけるものを選ぶ。そして仕事が始まり、その成果を展示し、一般に公開する。その目的はもちろん、enoco自体や大阪府の太っ腹ぶりを宣伝することではなく、行政機関にデザイナーの職能をきちんと知ってもらうこと、その活用を促進することだ。

このシンプルな試み。実はすごい。役所はデザインが何たるものかをほぼ知らないんじゃないかとの、確信に近い仮説がその目的の背景にあると推察するが、ガッチガチに固まった「役所の考え方とやりかた」に一石を投じている。新しい何かを作りだすために行政の担当者とクリエイターが目的と時間を共にすることで、「あればいいけどなくても困らない」成果物のデザインではなく、「デザインをするって何」というプロセスを肌で分かち合う。自らが担当する事業の目的は何か、誰に何を伝えたいのか。事業のための事業ではなく、そのゴールを再認識する。

伝わらなければやらないのも同じ。でも伝えるにはどうしたらいいか。そこにこれまで「デザイン」という解決方法はなかった。伝えることのプロフェッショナルとしてのクリエイターという存在。ここで投げられた小さな石は、大きな波紋を生みだす可能性をもっている。

植木啓子
大阪新美術館建設準備室(大阪市経済戦略局)
主任学芸員(デザイン担当)

鯵坂兼充氏と茨木市こども政策課の打ち合わせの様子

山内鷹資×貝塚市人権政策課
「地元に愛されるキャラを活用した人権週間周知ポスター」
写真:麥生田兵吾

「パブリック・リデザイン」展覧会の様子

これまでのイベント

enoco アート・キャラバン

（2016年12月9日／@こみち幼稚園　12月15日・16日／@豊能町立東ときわ台小学校）

より多くの人たちにenocoの活動を知ってもらい、また大阪府20世紀美術コレクションと、美術への関心を高めてもらえるよう「enoco アート・キャラバン」事業がスタートしました。今年度は大阪府下の小中高より実施希望校を募り、プレ事業を含め6校で実施する事となりました。こみち幼稚園では年長クラスで対話型鑑賞と造形ワークを、豊能町立東ときわ台小学校では1年生から6年生までの全員が対話型鑑賞を体験しました。作品をじっくりと時間をかけて鑑賞し、自分の考えなどを他の人と共有することで、作品への理解を深めるとともに、美術作品を鑑賞する楽しさを知ってもらえたのではないでしょか。また、作品たちと長い間向き合ってきた私たちにとっても新しい気づきを得る素晴らしい機会となりました。本事業は今年度中にあと4校実施する予定です。子供たちと作品が出会うことでどんな場が生まれるのか。今後もとても楽しみです。

高橋真理子／enoco企画部門

enocoのそうだん[eno so done!]2016 第2回「enocoの大相談会」

（2016年10月8日／@enoco ルーム1）

今年度2回目の[eno so done!]は4名のアドバイザーによるマンツーマン相談とトークセッション、ゲストアドバイザーの講演を開催しました。
オープニングの講演では、古田菜穂子氏より岐阜県の観光・シティプロモーション戦略、観光によるインパクト（成果）とそれを生み出すブランディングのシナリオづくりのプロセスをご紹介いただきました。
続く相談会では、地域・まちづくりの担い手や魅力の発掘と発信、地元で続くお祭りや、新しく始めたアートイベントの継続、地域情報を扱うローカルメディアが抱える課題などの相談にアドバイザーが答えました。
トークセッションではアドバイザーと相談会参加者も交えて、相談者が抱える悩みとその根本を掘り探り、各アドバイザーのアドバイスや考えに、他のアドバイザーの意見が加味され、より効果的なアドバイスとして相談者の悩みを解決するヒントを示すことができました。

松本拓／enoco企画部門

Osaka Creative Forum（2016年11月11日）
[eno so done!]スペシャルバージョン「都市の価値創造作戦会議」（2016年11月12日）

今年度も、魅力ある都市空間創造をテーマとしたトークイベントが2日間に渡り開催されました。
1日目は、3名のパネラーがクロストークを繰り広げ、enocoPF部門の忽那裕樹からは、木津川遊歩空間整備事業を題材に、魅力あるパブリックスペース創出のためには、公共発注の制度から見直す必要がある点が発表されました。様々なソーシャルムーブメントを仕掛けてきた山名清隆氏からは、公共空間づくりを支える人々に焦点をあてた現場作業員による共同溝ファッションショー等の興味深い事例をご紹介頂きました。さらに、コミュニティデザイナーである山崎亮氏による、会場参加者を対象とした「生ワークショップ」が展開されるなど、会場全体が一体感に包まれたフォーラムとなりました。
2日目は、「都市・地域の魅力を醸成するパブリックスペースとは？」をテーマにした自治体職員限定のトークイベントを開催しました。パネラーである海士町長や大阪市港湾局部長から、行政マンがプロジェクトを推進していくための手法論や、熱い想いを持ち続けることの大切さなど、具体的で実践的なレクチャーを頂きました。

濱本庄太郎／enocoプラットフォーム部門

えのこじま文化祭vol.2 サイレント○○の秋「MUO・ん」開催

（2016年11月23日）

photo: © 2016 Nobuya Fuke

11月の秋の文化祭シーズンの中、第2回〈えのこじま文化祭〉が開催されました。今回は春に引き続き、enocoに隣接するマンション1階にあるマーク・フラッグスタジオと公開空地、enocoの屋外スペースを舞台に、街めぐりイベントとして沢山の催しが行われました。
enocoの恒例イベント「えのこdeマルシェ」は過去最多の参加店舗で、“食欲”と“読書”の秋をテーマに古本や飲食店の屋台が並び、買い物をするお客さんで賑わいました。スタジオでは、マトリョミン（楽器）のワークショップやサイレント映画の上映会が。そして公開空地での「えのこじま凸凹ラジオ」では定期番組のDJが集合し、文化祭特別生放送を行いました。夕方になると寒さ厳しくなる季節ですが、アーティストのYotta（ヨタ）による移動焼き芋販売車「金時」がホクホクの焼き芋を販売し、それを頂きながら、夕方より始まった無音音楽祭（ラジオから音楽を聴く野外音楽祭）を楽しむお客さんの姿も。江之子島2丁目一帯という広い会場でありながらも、沢山の人が行き交う賑やかな1日となりました。

吉原和音／enoco企画部門

enocoのひとびと

「あけましておめでとうございます」のご挨拶は、恐怖の年度末突入の合図でもあります。この1年のとりまとめと新年度の計画と…。ところでenocoの指定管理は、おかげさまで次の5年も私たちが担うことになりました。新しい試みにも挑戦していきますので、皆さまどうぞ宜しくお願いします。[チーフディレクター 高岡伸一]

特集で取り上げた中には私自身が関わったプロジェクトも複数あり、色々な人のお話を聴き、思い出話に花を咲かせるうちに自分の12年を振り返るような思いになりました。が、感傷にひたっている場合ではなく、enoco5年のドキュメントブック制作の(恐怖の?!)追い込みが待ち構えています…![プログラムディレクター 高坂玲子]

去年は担当事業の波をかき分け、アートやパフォーマンスのイベントやフェスティバル、音楽や演劇などを鑑賞するためにあちこち出かけた1年でした。今年も気になるイベントやフェスを見つけて新しい経験・体験を積み重ねられるようにうまく波を乗りこなしたいです![プログラムディレクター 松本拓]

enocolumn 12

「ラジオでキャッチ、えのこじまの未来像」

ラジオはメディア・リテラシーを育む機会を与えてくれます。日常生活におけるラジオとは、そもそも聴くための道具でしかないわけですが、それは、機能全体のほんの僅かでしかありません。自ら電波を発信することによって、その可能性は果てしないものだと理解するのです。

―これはどのように使う道具なのか?

この問いは、私が初めてミニFMのラジオ送信機を手にしたとき、自身に投げかけたものでした。同時に人類が使う全てのメディアについてもこの投げかけが当てはまると気づきます。今だと、例えば「スマートフォンは、どのような道具なのか?」というふうに――。しかし、その本当の答えはどの製品マニュアルにも載っていないでしょう。つまり、一人ひとりが使い方を考える必要があります。面倒かもしれませんが、その意識はやがて表現の個性にもつながりますし、今後さらに多様化するコミュニケーション社会を寛容で創造性豊かに築いていくための大切な思索でもあるのです。

私が協力している〈えのこじま凸凹ラジオ〉は、簡単にいえば“誰もがしゃべれるラジオ局”です。同時にラジオをとおして前述の投げかけの答えを探す研究室のようでもあります。

これまでに、ラジオでフラッシュモブのような事をしたり、先日の〈えのこじま文化祭〉では「無音音楽祭」という生演奏がラジオ受信機からしか聴こえてこない実験的なコンサートを開演するなど、まるでラジオの起源に立ち返るようなメディア遊び的なことから、新たなコミュニティや防災、金融などをテーマとした(役に立つ!)定期プログラムまで、集う人の数だけ表現の幅が広がっています。今後、どのようなラジオ局になるのかは、興味を持って集まってくださる皆さん次第ということで…。

毛原 大樹

美術家、微弱電波愛好家、京都造形芸術大学非常勤講師、鳥取大学非常勤講師。東京芸術大学大学院修了。『FMヨコトリ』(大榎淳/上屋番、2005)への参加をきっかけに自由ラジオ、ラジオ・アートに興味を持つ。アナログ放送用電波、ラジオ、テレビを用いたプロジェクト多数。
主に『都市のエフェクト』(hiromiyoshii,2009)、『コジマラジオ』(旧小島小学校,2007)、『最後のテレビ』(新港ピア,2011)、『Scanningline』(HAPS Studio,2013)『テレビの部屋』(京都芸術センター,2014)、『Telephonovision』(京都芸術センター,2015)などがある。

enoco 館長 甲賀雅章の アートの航海 Voyage d'Art Vol.8

「現場に行かないと、得られないものがある」

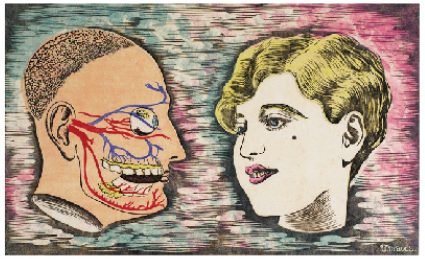
2016年も、実に多くのアートの航海をしてきた。いくら情報化社会とは言え、現場に行かなければ体験できないことがいっぱいある。誘われて、スケジュールさえ合えば、基本的に断らない。この軽さが必要だと思っている。

韓国のアーティストから結婚式への招待が届いた。これは行くしかない。韓国の結婚式とはどんなモノなのか、興味があったからだ。前日の11月26日、ソウルは初雪。折しもその日は、朴槿恵大統領の退陣を求める大規模デモが行われる土曜日であった。滞在ホテルはデモが行われる13車線道路に面している。地下鉄はラッシュ状態、駅構内もなかなか進めない状態であった。デモ隊に紛れ、ホテルまで行くのだが、実に平和的であった。みんながローソクを買い求め、退陣を訴える音楽が鳴っていなければ、まるで大きなミサが行われているようだった。アーティスト達の抗議テントも張られている。飲食店も軒を連ね、ある意味巨大なフェスのようでもある。友人のアーティストから、韓国を代表するクラウン「マリンボーイ」の新作を、明日の披露宴終了後に観に行かないかと誘われた。1日限り、1回限りのチャンス。僕は実にラッキーだ。素晴らしい作品だった。ロボットで出来た老婆がリヤカーを引いていく。観ている人々が落ちている段ボールを荷台に積んであげたり、リヤカーを押してあげたり。韓国人の優しさ、目上を敬う精神をみているようだった。終演後、打ち上げにも参加し、アートについて語り合った。今年もフットワーク軽く、アートの航海を続けていきたい。

大阪府20世紀美術コレクション

この一点!

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介します。

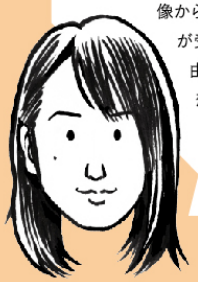


「美女と野獣」
前田藤四郎(1904-1990)
1930年|28.0cm×46.0cm|リノカット、紙

1904年、兵庫県明石市に生まれた前田は、昭和初期、近代都市へと大きく成長をとげる“大大阪時代”に本格的な活動を開始した版画家です。高校卒業後に松坂屋大阪店の宣伝部に勤務、その後の軍隊時代に独学で版画を学び、除隊後はグラフィックデザイナーとして働きながら版画の制作を行いました。

前田はこの頃、一般大衆に親しまれる廉価な版画、大衆の生活感に根ざした作品を多く残しています。前田が見つめた華やかな大大阪時代。商業美術家として同時代文化を観察しながら、欧米雑誌や広告、医学書などから、さまざまな図像を版画作品へ転用しています。この作品もそのひとつであり、グラビアの美女と解剖図が対峙しています。

実はこの作品、80年以上たった今、enocoの事業「アート・キャラバン」にて、小学校などでたくさんの子供たちと“対話型鑑賞”が行われています。「同じ人の中身と外見」、「死んだ人と生きている人」、「このふたりは愛し合っている!」。内と外、過去と未来、生と死、愛と憎悪。対峙するふたりの像からいろんな境界に考えを巡らし、子供たちが受信して紡ぐ前田のメッセージ。彼らの自由な発想を見つめながら、大阪の今と昔に想いを馳せる日々です。



近藤 美智子
enoco企画部門

オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介いただきます。

凧大百科 日本の凧・世界の凧
著者:比毛一朗

今ではお正月の風物詩になった凧揚げ。図工の時間に作った不細工な凧では満足できず、もっと速く!もっとカッコよく!と、ゲイラカイトに夢中になった小学生時代。今でもゲイラカイトのスピード感にはゾクゾクします。さてこちらの本。凧の文化的背景をもとに、日本の各地方による様式の違い、アジアや欧米諸国の凧の紹介、その構造における力学や工学など、歴史や学術・雑学を網羅した、その名に相応しい凧の大百科です。色々な諸説がありますが、中国から伝来した後、江戸時代には庶民文化として繁栄します。竹や和紙の製造で各藩が産業として力を入れ、浮世絵師の流れを汲む凧絵師も職業として確立したそうな。ん!?今でいうご当地キャラクターの走りじゃないですか!!なんて考察もできちゃう為になる1冊です。

ON THE BOOKS
営業時間:11:00−20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中　**www.on-the-books.info**

米田 雅明
オン・ザ・ブックス店長

enocoホームページ広告バナー随時募集中!

DECO BOCO NEWS

enocoのある大阪市西区江之子島では、
アートやデザインのちからで、くらしをより楽しむための
文化活動「DECOBOCO(デコボコ)」が行われています。

www.enokojima.info

昨年の12/23、毎月第3日曜日にフラッグスタジオで練習を行う「セントマーティンオーケストラ」の有志によるクリスマスコンサートを開催しました。やはり生演奏はいいものです。馴染みのあるクラシックやクリスマスの名曲を、参加者のみなさん楽しんでおられました。私的には山下達郎版「クリスマスイブ」がよかったなぁ。[DECOBOCO プログラムディレクター 小池一馬]

アイデア376 刊行記念トーク
「グラフィックデザイナーと展覧会」

グラフィックデザイン誌『アイデア』最新376号の特集「グラフィックデザイナーと展覧会」の編集を担当した、大阪を拠点に活動するOOO Projectsの後藤哲也と編集長の室賀清徳、そして、特集の軸となった第27回ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレにアジアから唯一出展した秋山伸が、刊行記念トークを開催。フラッグスタジオと同じ阿波座エリアにある「space_inframince」で2月1日から3月5日まで開催される「edition.nord : ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ2016 帰国展」の話題を中心に、グラフィックデザインと展覧会の関係性について考える場をひらきます。

—

日　時: 2月4日(土)18:00 -(受付は17:30から)
場　所: フラッグスタジオ
登壇者: 秋山伸(Edition Nord)
後藤哲也(OOO Projects)
室賀清徳(『アイデア』編集長)
定　員: 40名
料　金: 1000円
[主催] A&Lマネジメント(DECOBOCO)
[共催] 『アイデア』編集部、space_inframince

東日本大震災以降の「語り」をテーマとする映画祭
「みちのくがたり映画祭」

「ちかくてとおい」
©大久保愉伊

2011年の東日本大震災から6年がたち、被災後の土地には新たなまちが造成され、まちは変わり続けている。みちのくがたり映画祭」は東日本大震災以降の「語り」をテーマとし、震災によって断絶されない東北の土地の記憶の記録と継承を試みた、映画作品の上映と監督による対話式トークを行ないます。

—

日時:3 月2 日(木)〜4 日(土)
場所 :フラッグスタジオ
上映作品:
「うたうひと」 監督:酒井耕・濱口竜介
(2013年/カラー/120 分)
「波のした、土のうえ」 制作:小森はるか+瀬尾夏美
(2014年/カラー/67 分)
「ちかくてとおい」 監督:大久保愉伊
(2015年/カラー/53 分)
ほか
料金:1000円/高校生以下500円/フリー券3500円(3日間有効)
※各回入替制　※詳細は**enokojima.info**をご覧ください。
[主催] 一般社団法人アーツグラウンド東北
[共催] A&Lマネジメント(DECOBOCO)
[助成] 大阪市

江之子島芸術の日々2017
「他の方法」

木村充伯
"祖先"(部分) 2016
毛が生えるパネルに油彩
685×845×46mm
写真:タン・ルイ

江之子島芸術の日々は、日本人の多くが暮らす日常空間「マンション」を主たる展示会場にした、日常を新たな視点で見つめなおすための、新しいアートプロジェクトです。参加作家は、絵画や彫刻、写真など既存の表現手段を独自のプロセスを用いて発展させて制作をしています。現状を否定する「別の(Alternative)」ではなく、現状を肯定しながらも同時に「他の方法(Other)」を志向する作家による、日本ならではの新しいかたちのアートプロジェクト。パブリックアートのように美術作品を作品然と「展示」するのではなく、また、地域芸術祭の中心である「参加型アート」でもない、生活のプログラムの中にバグを忍ばせるような、文字通りの「インスタレーション」を行います。

—

日時:3月10日(金)〜19日(日)11:00-19:00
13日(月)は休館、19日(日)は16:00まで | 入場無料
場所:enoco 1F ルーム4、フラッグスタジオ、マークスタジオ
参加作家:佃弘樹、山田周平、長坂有希、木村充伯、彦坂敏昭、若林勇人、村田宗一郎、杉山卓朗、須賀悠介、小池一馬
[主催] A&Lマネジメント(DECOBOCO)
[協力] 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]
[協賛] 資生堂

イベントスケジュール

1月

21日　バロック音楽 コンサート
出演:竹森 健二(トランペット)、大山宮和瑚(ピアノ)、中原加奈(ソプラノ)、二口晴一(ファゴット)

2月

4日　グラフィックデザイナーと展覧会
グラフィックデザイン誌『アイデア』376号刊行記念トークイベント

25日　台湾茶DECOBOCOカフェ
台湾茶を気軽に楽しめるカフェを開催

26日　クラウンショー&ジャグリング体験教室
プレジャー企画による楽しいパフォーマンスと体験教室

3月

2〜4日　みちのくがたり映画祭
東日本大震災以降の「語り」をテーマとする映画祭

10〜19日　江之子島芸術の日々2017 他の方法
東西の若手芸術家10人によるグループ展を大阪府立江之子島文化芸術創造センターのルーム4、フラッグスタジオ、マークスタジオの三会場で開催

26日　クラウンショー&ジャグリング体験教室
プレジャー企画による楽しいパフォーマンスと体験教室

その他、卓球教室やヨガ教室なども定期的に開催中。
くわしくはFacebookページ、江之子島情報サイト(www.enokojima.info)をご確認ください。

decoboco

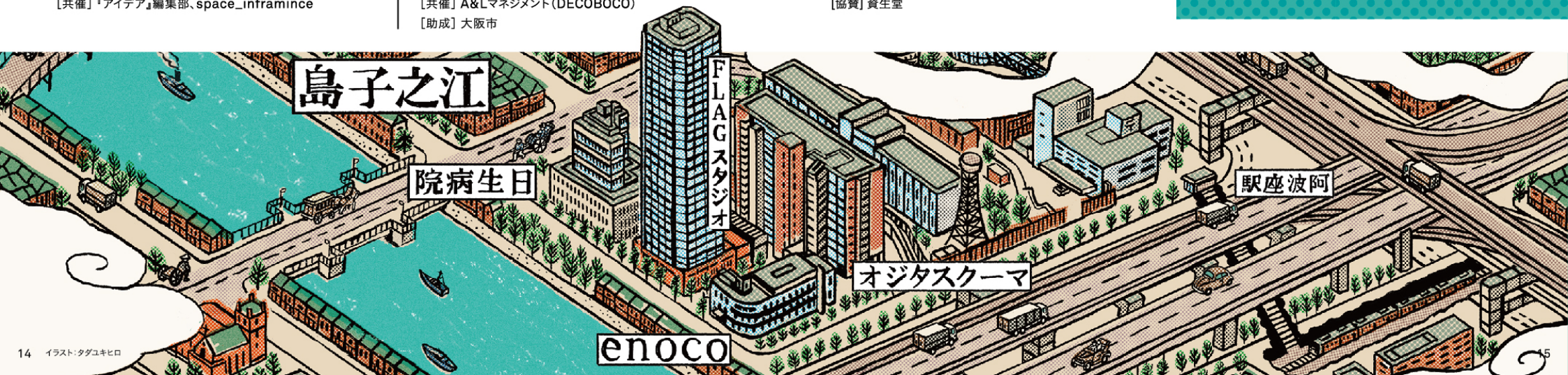


イラスト:タダユキヒロ